

2023

5

ナイル

現代短歌ナイル

【今月の歌】

酒本郁也、花野真輝
二方久文、井村清美

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

中皇帝の歌について／多羅空岳

3月号作品批評／宮本史一(心の花)

NILE CAMPUS

287

伯梅閑話 — 慰問 —

小村井敏子（五代目神田伯梅）

名古屋へ木材産業報国会の慰問で行った。桜川ピン助が美代鶴（みよつる）と組んで、漫才の初高座だった。この人は元深川木場（きば）の材木問屋の主人だった。幫間（ほうかん・たいこもち）あげてののちのたいこもちだった。芸者遊びが過ぎて、たいこもちになることになったのだ。名古屋で売れっ子の芸者、美代鶴といふ仲になった。他の芸人もそうだが、同じお座敷で稼ぐ芸者と幫間。恋愛は「法度（こはつと・禁止）だ。幫間として働くことができなくなって、漫才になった。

この時は、「三助」と書いて、「ぴんすけ」と読ませていた。博打（ばくち）で、さいころの目が二と三だと、「ピン」と呼んだからだというが、博打をしない伯梅にはよくわからなかった。

この慰問は、十日間だった。食べ物などの扱いが悪い日は「明日は、短くやろう」とピン助が言う。講談はどうしても長くなる伯梅が講談をやっている途中で、早く降りろと舞台の裏へ回ったピン助が、羽目板を金づちでドンドン叩いた。

師匠の五代目伯梅は言った。

「勝負事は、してはいけない。本性を見られるから」

相手に本性を見抜かれるから、勝負事をするなど言われた弟子は、博打はおろか、碁・将棋・野球のルールも知らない。そう言ったご本人の五代目伯梅は、博打をやっては負けていた。

博打は、錦城斎典山（きんじょうさい てんざん）が強かった。楽屋じゅうの金をさらっていったという。六代目一龍齋貞山（いちりゅうさい ていざん）のおかみさんから、五代目伯龍が聞いた話だ。六代目貞山も博打は好きだった。

（ナイル2005年三月）